

優先順位	1
------	---

浜松駅周辺交通円滑化事業について

都市計画部交通政策課

■目的

昨年度策定した都市計画マスタープラン及び総合交通計画において、都心の育成は、効果的かつ早期実施が必要な施策として位置づけ、「都心育成に向けた様々な取り組み」を進めていくこととしている。

この取り組みの内、交通に係る施策としては、浜松駅北口・南口駅前広場の交通結節点機能の強化、及び歩行者の回遊性の向上を推進することとしている。

1つ目の交通結節点機能の強化としては、駅南口に位置する駅南地下駐車場の平成25年度浜松市移管を見据え、駐車機能に加えて地下送迎レーン機能を付加し、併せて施設のUD化を進めることとする。

2つ目の回遊性の向上としては、交通結節点である駅及びバスターミナルから主要な商業施設、アクティビティ、再開発地区、東地区などへの歩行者動線の再点検を行った上で、駅前広場を中心とした回遊空間をさらに広めるソフト、ハード施策について方向性を示すこととする。

以上のことから、「浜松駅周辺のアクセス性及び回遊性の向上に関する取り組みの方向性(＝基本構想)」を示すとともに、駅南口については、駅南地下駐車場の地下送迎レーン化に向けた課題整理や施設改善に係る実施設計及び工事施工を実施する。

■内容及びスケジュール

平成23～27年度

浜松駅周辺交通円滑化基本計画策定、駅南地下駐車場改良工事、南口駅前広場改良工事

■事業費（所管課見積額）

平成23～27年度 352百万円

【協議要旨】

- ◆ 駐車機能に加えて送迎レーン機能を付加し、併せて施設のUD化を検討する。
- ◆ 駅前広場を中心とした回遊性を向上させるような施策について、取り組みの方向性を示す。

位置図



①浜松駅南口混雑状況



②浜松駅南口混雑状況



③駐車場出口混雑状況



④浜松駅北口混雑状況



JR 東海道本線に係る交通結節点の整備推進について

都市計画部区画整理課
土木部道路課

【概要】

主要な交通結節点である JR 高塚駅、天竜川駅は、鉄道・バス・タクシー・自動車・自転車・徒歩などの様々な交通手段によって、多くの人が集まる場であり、まちづくりと公共交通が一体となった施策が求められる。交通結節点周辺の都市基盤整備やユニバーサルデザインに配慮した交通基盤施設改善を実施する必要がある。

【今後の取組み】

JR 高塚駅、天竜川駅は、一日当たりの乗降客数が約 5,000 人となっており、「高齢者・障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に関する基本方針により、2 駅のバリアフリー化への早急な対応が必要であり、自由通路や橋上駅舎化などの整備を図っていく。

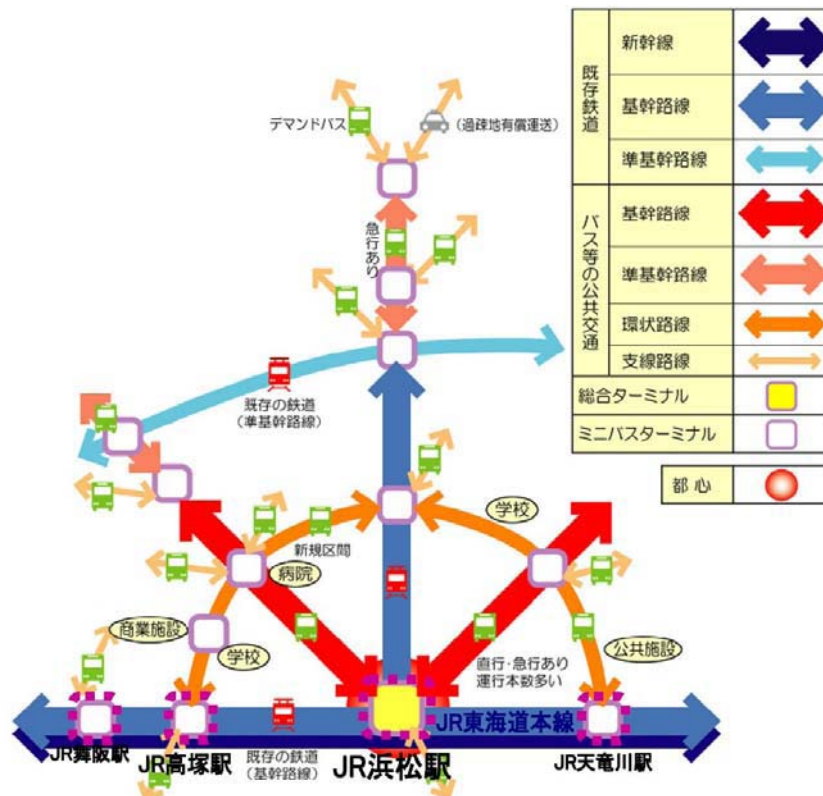
【今後の予定】

○JR 高塚駅

- ・自由通路、橋上駅舎化については、平成 22 年度、JR 東海と南北自由通路などの整備について覚書を締結し、平成 23 年度は、JR 東海と工事協定を締結し、事業を実施する。
- ・南北自由通路及び橋上駅舎化事業の整備と市街地整備事業を分離して実施し、暫定的な整備となるため、アクセス道路、駅前広場整備や土地区画整理事業の実施時期等について検討する。

○JR 天竜川駅

- ・自由通路、橋上駅舎化については、JR 東海との協議により事業実施について明らかにし、事業着手に向け調整を図る。
- ・駅南口周辺の土地利用の更新に向けて、工業地域から近隣商業地域に用途変更することを検討する。



【協議要旨】

- ◆ JR 東海と調整を行いながら、自由通路と橋上駅舎化を進める。

優先順位	3
------	---

都心再生に向けた都市機能更新の取組みについて

都市計画部都市開発課

1 目的

本市の中心市街地では、昭和 30 年代に市街地建物不燃化事業により建設された共同ビル等において、建物躯体や設備等の老朽化、社会経済情勢の変化や中心市街地の衰退などにより、経営や管理運営上の課題を有するビルが増えている。

このような状況から、都心の再生方策に係る検討を行いながら、既成市街地の老朽建築物の再整備による都市機能の更新を図り、市民の生活や交流及び働く場の拠点作りを進め、都心の魅力アップや中心市街地の活性化につなげるために、市街地整備の必要性や優先項目を整理して事業推進の一助としたい。

2 概要

平成 21 年度に緊急雇用創出事業を活用して、中心市街地活性化基本計画区域（約 150ha）の土地利用や業種・業態等の実態を調査したことにより、都心機能の充足度や環境悪化、災害の危険性、人口の空洞化、既存商店街の活力の低下の状況を把握することが出来た。

これからの都心における市街地整備事業は、厳しい財政事情をふまえながらも経済・社会情勢の変化、人口の減少化、情報化、環境エネルギー問題等へ対応していくまちづくりの視点が重要となり、かつ地域の特性を活かしたきめ細かい対応が必要である。

このため、昨年度の調査で明らかになった市街地整備の必要性や施行の可能性のある区域について、地元意向調査、優先項目の整理、整備手法のメニュー化確立等により、今後の取組みとして選択と集中の検討を行い、都心再生に向けて推進していく。

【協議要旨】

- ◆ 地元意向調査、整備手法の検討等により、市街地整備の必要性や優先項目の整理を進める。

